日本基督教団　関東教区

関東教区通信

No.160　2020年7月26日

発行者　日本基督教団関東教区
総会議長　福　島　純　雄
事務所　〒330-0844　さいたま市大宮区下町3－39
電　話　048－647－0862
ファックス　048－647－0978
郵便振替　00140－3－67727
Eメール　kantou@air.ocn.ne.jp
URL　http://uccjkanto.holy.jp/index.htm

まなざしを合わせて

出エジプト記 33章11節

聖学院大学教務教師　五十嵐（いからし）成見

緊急事態宣言が明け、娘が保育園に登園できるようになりました。4月から新しい保育園に通い、1週間ほどで緊急事態宣言。妻は仕事上、出勤を続けなければなりませんでしたが、私はテレワークのため、2か月近く一緒に過ごす日々を送りました。

最初の1か月はかけがえのない日々だと思っていましたが、そのうち大変になってきました。まだ一緒でないと遊びも満足にできない歳です。テレワークが本格化しても片手間になり捗りません。仕事に集中できるのは娘が寝静まった後。寝不足が続きました。

2か月後、再登園。この時ほど保育園の存在をありがたく思ったことはありません！　でもやはり心配なのは娘。振り出しから始めなければなりません。

いよいよ再登園。園庭を駆け巡る子どもたちの中で、戸惑いを隠せない娘。帰りたそうな雰囲気。今日は家に戻るか。迷いがありました。その時、担任の先生が、娘を見つけ名前を呼んでくださいました。駆け寄ってきてしゃがみ込み話しかけました。娘の顔をしっかり見るためでした。まなざしを同じ高さに合わせるためでした。笑顔で手を取ってくれました。

迷いから解き放たれました。先生は娘の心にまなざしを合わせて、寄り添ってくださっている。こういう方がいれば大丈夫だ。先生の子どもへのまなざしは、私の不安な心をも落ち着かせました。

モーセという指導者がいます。エジプトで奴隷となっていたヘブライ人を憐れんだ神が、彼を指導者にしてカナンの地に導くことにします。モーセといえば、ミケランジェロによる彫像のように威厳があり、聡明かつ自信に満ちた人物をイメージします。

しかし実際は、モーセは未熟な指導者でした。まず口下手でした。神に何度も指導者になることを求められても、怖気づき言い訳を重ね、受け入れようとしません。シナイ山に登って神からいただいた十戒を、偶像崇拝をしていた民を見た際、怒りのあまりに投げつけて壊します。怒りをコントロールできなかったのです。カナンに辿り着こうとしますが、かつて神の命令に従わない形で奇跡を起こしたために、とがめられて足を踏み入れられませんでした。神に信頼していれば、命令通りに行えた奇跡でした。

モーセの歩みを振り返ってみた時、指導者としてのモーセは、オイオイ大丈夫かよ、と突っ込みたくなるエピソードがてんこ盛りです（私のようですね）。それでもモーセは、次第に成長させられていき、指導者としての役目を果たし抜きました。約束の地には入れませんでしたが、やはり40年かけてイスラエルの民を率いた功績は、モーセだからこそ成し得たことでした。

でも、未熟なモーセがなぜそんな大切な役目を果たせたのでしょうか。神がモーセを諦めなかったからです。モーセに召命を与えた以上、信頼し、上から裁くのではなく、まなざしを合わせて言葉をかけ、成長を促し続けられたのです。

このまなざしは、聖書の言葉に明らかです。「主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。」神が友と語るようにして、顔と顔を合わせて語られました。友に対して横柄で傲慢に語る人はいません。上から目線で物言うのも本当の友ではありません。神がモーセに遜って語調を合わせながら、心を寄り添わせ成長を信じつつ御言葉を語り続けました。保育園の先生が、娘の名前を呼び掛けて、まなざしを合わせて話してくれたように。そして、それ以上の徹底的な仕方で。

翻って私達はどうでしょうか。神が友と語るようにして、遜って顔と顔とを合わせて語られたようにしているでしょうか。牧師が信徒に、信徒が牧師に。牧師が牧師に、信徒が信徒に……。

教会が教会らしく、キリスト者がキリスト者らしく、牧師が牧師らしくなっていく。それは神とモーセのような関係から形成されていくのでしょう。

教区総会書面決議執行と延期について

関東教区議長　福島　純雄

この原稿を書いている現在では、緊急事態宣言は解除され、県をまたいでの移動自粛も解かれた段階です。それぞれの教会の礼拝も、あくまで三密を避けまたマスク着用や手指消毒を励行しつつですが、再開されつつある状況です。

さて、5月27日～28日にかけて予定されていた第70回定期関東教区総会ですが、既に開催延期を公告しました通り、4月7日の常任常置委員会及び4月14日の常置委員会におきまして延期の判断を致しました。この判断を、第69回総会の議員の方々に書面によりましてご承認いただくこととし、あわせて緊急に執行してゆかなければならない諸点（2020年度予算案の仮執行／補教師准允式執行／謝儀互助等の仮執行／教会負担金の1割減免とそれに伴う負担金割賦額変更／延期された総会の開催）を常置委員会に一任することをやはり書面にてご承認いただきました。

17ある教区の内には、書面にての「開催」という形をとったところも多くありましたし、当教区でも延期ではなく同様の開催とすべしとのご意見もありましたが、教会会議は神様のもとに集まりそこにこそご聖霊の導きがあってなされるものとわたしとしては考えており、一旦は延期とさせていただいて、しかしできるかぎり集まっての開催を模索したいと願っております。

延期にしても書面にての開催という形を取るにしても（各個教会の総会開催においてもそうだと思いますが）、なにぶんにも教憲教規にはこういったケースについての明文による規定がありませんので、様々な混乱・困惑があったようです。教憲教規をめくっていて、はじめて教規36条に（常議員会の開催について）「書面によって決議を行うことができる」との規定があるのを見つけました。また今回のような事例は、教規71条（4）にある「教区総会が成立しないとき、または教区総会議長において教区総会を招集するいとまがないと認めたとき」の「いとまがない」を拡大解釈して、これに相当すると考えてもよいように思います。

いずれにしても、包括団体である教団には、こうした事態下での教区総会や各個教会の総会に関するマニュアルをぜひ作成してほしいと切実に感じます。これについては6月12日にＷｅｂにて開催された教区議長会議で要望しておきました。

さて、延期された第70回総会は、9月25日（金）に1日のみにて開催することを、6月9日の常置委員会において決定致しました。場所はソニックシティ小ホールではなく（小ホールでは十分な距離がとれません）、教区事務所から歩いて数分のさいたま市民会館おおみや大ホール（収容人数は1300名ほどです。従って十分な距離を取ることが可能）です。この開催が可能かどうかの判断は、議案提出期限の40日前に間に合うよう、8月15日までにはしたいと考えております。ここで開催できないとなれば、やはり書面にての開催にせざるを得ません。その場合には、大きく意見が分かれるような議案については上程することなく、法定議案のみを取り扱わせていただくことと致します。

6月9日の常置委員会では、現在3000万円の積み立てがある『ナルド基金』から500万円を教会互助特別会計に繰り入れて、コロナ禍によって謝儀支出が困難となっている教会に緊急互助を実施する事を決めました。7月14日に教会互助特別委員会と災害対応支援委員会を合同で開催し、各地区を経由してあがってきた申請に対して、早速支援を開始したいと考えております。

あわせて各教会におけるコロナ被害の実状を調査させていただき、さらなる負担金の減額が必要かどうかを検討してまいります。但しこれは教区単独ではできえない部分であり、何よりも教団負担金の減免が前提となる事柄です。先の教区議長会議では（過日の『教団新報』でも発言がありましたが）、石橋議長からは1億円規模の支援を考えたい旨の発言がありました。できるだけ早期にこれを具体化していただきたいものです。これも強く要望致しました。

なお、10月に開催予定の教団総会がどうなるか、はやり教区議長会議の重要なテーマでしたが、7月6・7日に開催される常議員会でほぼ見通しがつくのではないかと思います。

諸教会の上に主の祝福を祈ります。

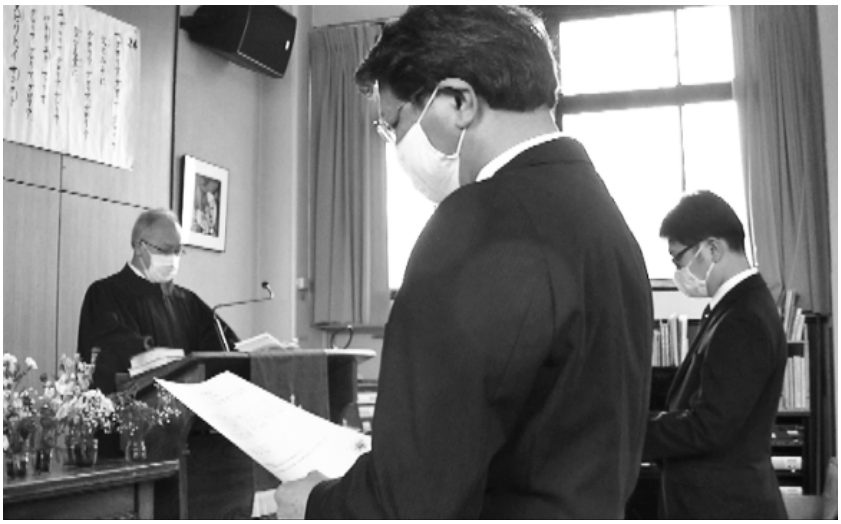
春季准允式報告

教区書記　小池　正造

今年の春季准允式が、福島純雄教区議長の司式において、6月9日(火)午後1時より大宮教会で、また13日(土)午後１時より新潟教会において執り行われ、それぞれの会場に40名ほどの関係者が集まりました。大宮会場では、吉居美緒氏（新島学園中学校高等学校教務教師就任予定)、稲益久仁子氏（埼大通り教会主任担任就任予定)、佐藤彰子氏（越生教会主任担任就任予定）が、新潟会場では、大島庄吾氏（新潟愛泉伝道所主任担任就任予定)、野澤幸宏氏（栃尾教会主任担任・巻祝福教会兼務主任担任就任予定）が、准允を受けられました。

春季准允式は、本来5月にもたれる教区総会の中で執り行われるのが常でしたが、今年は、コロナ禍の中で教区総会の開催が困難な状況にありました。このため、第69回教区総会議員の皆さまに書面による議決権行使によって、「准允式執行を常置委員会に一任する件」を可決いただき、この度の執行となりました。なお、コロナ禍対策として、大宮教会会場と、新潟教会会場の2箇所に分けて行いました。

いつもとは異なる准允式ではありましたが、ここに御言葉を語る教師の立てられたことを感謝しつつ、その場に列した一人として、あらためて御言葉を宣べ伝えることの大切さを確認する時となりました。遣わされた地において、神の祝福のあることをお祈りしています。



新潟教会での准允式　６月13日

大宮教会での准允式　６月９日

祝　准　允

新潟愛泉伝道所伝道師　大島　庄吾

日本聖書神学校を卒業し、新潟愛泉伝道所へ主任担任教師として赴任しました大島です。もともと、新潟愛泉伝道所は所属教会であり、10年ぶりで新潟に帰って来ました。それまで会社勤めで岡山、神戸、大阪と新潟を離れて放蕩息子のようにいくつもの教会を見て回り、行きつくところが、神様の導きの許に日本聖書神学校へ行って神学の学びをする事でした。

新潟愛泉伝道所では、牧師を始め、信徒の方々、新潟地区教会の方々が祈り、支えてくださいました。故郷での宣教に導かれた事は、神の憐みによる御計画と私の様な者に目を止めて下さった神に感謝するものです。慣れた地で右も左も分かっているつもりでしたが、10年もの月日が経って見る風景は、少し違っているような気がします。主任担任教師としての自覚を持つと共に、新しく歩み出す自分と新潟愛泉伝道所が主の御心を成せる共同体でありたいと思っております。

栃尾教会・巻祝福教会伝道師　野澤　幸宏

この春、日本聖書神学校を卒業し、栃尾教会に赴任した野澤幸宏と申します。巻祝福教会も兼任いたします。埼玉県川越市の出身で、高校生の頃に導かれて以来足掛け20年、埼玉地区の坂戸いずみ教会で信仰生活を歩んできました。キリスト者家庭ではない家に生まれ育ち、教会に導かれるまでは様々な人間関係の中で自信を持てずに過ごしていました。しかし、教会に導かれ、そこに集う人の優しさを通して主の大いなる愛に触れ、自分も人を愛して生きていきたいと思うように変えられていきました。その思いはいつしか聖霊によって強められ、献身の志へと育まれ、伝道師として立てられるに至りました。主の不思議な導きに驚きつつ、感謝しています。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と主がお語りくださっている通りに、主が遣わしてくださった新潟地区で、神の愛を宣べ伝える業に励んでいきたいと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新島学園中学校・高等学校教務教師　吉居　美緒

この度、補教師として准允を受けました吉居美緒と申します。今春に同志社大学大学院神学研究科博士課程前期課程を修了し、新島学園中学校・高等学校（群馬県安中市）で奉仕させていただくべく、関東教区へ移って参りました。京都府で生まれ、これまで過ごしてきましたので、初めてのお引越しでした。

この度私は学校へ派遣されることとなりました。学校という場所における私の役割は、第一に、場所がどこであっても変わることがない、神への愛と隣人への愛を宣べ伝えることです。第二に、神に応えて生きようとする生徒や教職員を与えられた際には、その方々を教会へと繋げることです。小さな者ではありますが、神の宣教の業に参与する器として用いていただけますと幸いです。

人と人とが直接会うことが難しい時期ではありますが、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【カット・今橋　朗】

埼大通り教会伝道師　稲益久仁子

北海道の道北クリスチャンセンターで農村伝道に関わり、そこから導かれて農村伝道神学校で学びました。そしてこの4月から埼大通り教会に派遣されました。出身は北海道名寄市、北海道生まれ北海道育ちの道産子です。

今、補教師准允を受け身の引き締まる思いをしています。まずは御言葉を真っ直ぐに宣べ伝えることです。御言葉に堅く立つことを心がけます。また牧会者として人々の魂に配慮をすることに力を注ぎたいと思います。群れを養うものとして人々の声に耳を傾け、全身全霊でしっかりと聞くことができるようになることです。初めての赴任地となる埼玉で、その土地と人を愛し尽くし粘り強く牧会・伝道ができますよう祈り求めてまいります。関東教区の皆さま、どうぞ宜しくお願い致します。

越生教会伝道師　佐藤　彰子（あきこ）

私は、ずっと家庭の主婦でした。3人の子供を育てながら、海外勤務の夫に着いて転勤を重ねました。子育てを終わると、介護が始まり、途中で召しを聞きました。両親と舅を見送り、姑がホームに入り、私は日本聖書神学校に入りました。

今回補教師試験の直前に息子が救急車で病院に運ばれ、赴任の日には緊急手術でした。それはこのまま進めと言われているのか、やめろと言われているのか。自分をどこに置くのか迷いました。でもこの2カ月、その時その時の精一杯で、道は開けてきました。

今准允を受けて、わたしがすることは、御言葉と格闘して御心を聴き取ること。そしてできる限りのわかる言葉で目の前の人に語ること。そして、この越生の地に身を置いて、教会の方々、越生の方々を大事に思えるようになりたい。それが私の抱負です。

着任してひとこと

宇都宮上町教会伝道師　武石　晃正（てるまさ）

先の見通しがつかない状況の中、この４月に宇都宮上町教会へ赴任いたしました。担任教師の武石晃正と申します。異例の事態にありましたが、信仰によって受け入れてくださった教会の皆さんに感謝しています。

昨年度中は専任の担任教師が不在という不安な一年を、役員の方々が中心となって主の教会を守って来られたと聞いております。引き続き主任担任教師代務者の横山基生先生のご指導の下で、今年度も一歩一歩進むべき道を祈り求めています。

緊急事態宣言の下で公の礼拝を守るという使命を果たす方法を模索いたしました。幸いにも同宣言は長引かずに解除されましたが、新しい生活様式として予断許されない日々は続いています。

今回の事態で新任地においてチャレンジをいただき、献身の思いも新たにされて歩みはじめたところです。ご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

水海道教会牧師　手束　信吾

新潟地区の栃尾教会で20年間（うち12年半は巻祝福教会の代務も）お仕えした後、今春から茨城地区の水海道教会に着任いたしました。今春転任の方は皆同じだと思いますが、着任してすぐに教会での礼拝ができなくなり、まだ信徒の方の顔と名前も一致しないうちに慣れないオンラインで説教したり、説教原稿を配布したりと、かなり消耗しました。加えて全く経験のない園長の務めもあり、新型コロナウイルス対応でいろいろな決断を下さなければなりませんでした。そんな時ふと気がついたのは、ここではどこを

見渡しても山が見えないということでした。前任地では疲れた時などには、無意識に山に目を向けていたことに気づかされました。「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る。天地を造られた主のもとから。」（詩編121：1～2）助けは必ず来ることを信じて、新しい地でも粘り強く仕えてゆきたいと思います。

聖学院教会牧師　赤田　直樹

私は、「キリストの教会」という小さな教派の中の、おそらくは一番小さい教会の牧師家庭に生まれ育ちました。学生時代には「ディサイプルス派」の伝統の聖学院大学で学び、献身の後には滝野川教会、秋田高陽教会と、どちらもディサイプルスゆかりの教会で過ごして来ました。

秋田に在任中、両教派について調べる機会があったのですが、何と母教会のグループ「キリストの教会」と「ディサイプルス派」は、日本宣教時には同じグループであったことや様々な経緯を経て別々になったことを知りました。

ストーン・キャンベル運動と呼ばれるこの働きの中で、一番小さな教会に生まれた私が、この運動の一番最初の地秋田で15年過ごした後、この運動の一番若い聖学院教会に遣わされるとは、神様のご計画は本当に不思議です。

こんな私ですが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

所沢みくに教会牧師　加藤　久幸

所沢みくに教会に赴任した加藤久幸と申します。

教会「担任」教師としては一区切りをつけてもよいのではないかと考えていましたが、結果として続けることになりました。そのような経過もあり、今回の赴任には初めてのことがいくつかあります。教区内で移動すること、関連の働きを伴わない「担任」教師だけの教会への赴任も、初めてです。そして、これは皆さんも経験していることですが、コロナ禍の状況での転任ということも、新しいことです。

教会は、牧師を誠実に迎えてくれました。人が集まり、共に祈ることが難しくなった現実の中で、教会のあり方や活動も揺さぶられています。そのような経験を共有しつつ、教会は礼拝を献げ共に祈る歩みを求め歩んでいます。また、貧困や差別、格差がさらに広がる現実の中で、一人ひとりの命を守る歩みに、教会がどのように関与するか等も課題です。

所沢みくに教会牧師　加藤輝勢子（きせこ）

4月より所沢みくに教会の副牧師と着任しました加藤輝勢子と申します。前任地は関東教区の茨城県の水海道教会におりました。関東教区の皆様には改めてよろしくお願いします。

4月から所沢みくに教会に参りましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教区、地区のみならず、まだ教会員とも会うことがかなわない方が多くいます。一日も早く、交わりを持ちたいと願っています。

しかしながら、私はもう一つの働きとして東京の（一財）本所賀川記念館に勤めています。平日はそちらの働きに多くの時間を取られてします。

所沢みくに教会では新型コロナウイルス感染拡大防止の影響もあり、新任牧師だけではなく、教会員も戸惑うことが多くある中で始まった感じですが、役員会を中心にみんなで話し合いながら、事柄の一つひとつに対処していける喜びを感じています。よろしくお願いします。

第69総会期第５回、第70総会期第１回常置委員会報告

教区書記　小池　正造

4月14日に第69総会期第5回常置委員会が、6月9日に第70総会期第1回常置委員会が、6月2日に第1回常任常置委員会が、いずれも大宮教会において開催されました。なお、第5回常置委員会は、コロナ禍対策として、午後１時より開催し、報告案件はすべて書面による報告といたしました。

・第5回常置委員会において、春季准允希望者への面接を行いました。大島庄吾氏（新潟愛泉伝道所）、野澤幸宏氏（栃尾／巻祝福教会）、吉居美緒氏（新島学園中高）、稲益久仁子氏（埼大通り教会）、佐藤彰子氏（越生教会）への准允執行を可決しました。なお、コロナ禍対策として、准允式を6月9日常置委員会（大宮教会）と6月13日臨時常任常置委員会（新潟教会）に分けて執行することも併せて可決しました。

・教区総会開催について協議をいたしました。書面において、第69教区総会議員に対して、①第70回関東教区総会を延期する件、②春季准允式執行を常置委員会に一任する件、③2020年度関東教区教会負担金割賦案並びに2020年度一般会計予算案の仮執行に関する件、④教区教会負担金の緊急減額に関する件、⑤「ナルドの壺」献金推進に関する件（謝儀互助執行）の仮執行をはかることといたしました。なお、この時点では、延期日程は未定でした。

・教会解散に関する件（西上尾教会）を教区総会議案とすることを可決した。

・教会設立に関する件（群馬町伝道所）を教区総会議案とすることを可決した。

・コロナ禍対策として、8月末までの教区諸行事を中止することを可決しました。このため、就任式も9月以降となります。

・延期されていた教区総会開催を、9月25日（金）の一日開催で、さいたま市民会館を会場に行うことを可決しました。但し、8月中旬の時点で、緊急事態宣言が発令されていたり、県をまたいでの移動自粛要請が出されている場合など、急遽中止とする場合もあります。その時は、書面決議となります。また、選挙開票作業や、特別委員会などは、大宮教会をお借りして行う予定です。

・秋季教師検定試験志願者の面接を行いました。金子智（中条教会主任担任）、平向倫明（東中通教会担任）、山野心（下館教会主任担任）、渡邉典子（所沢武蔵野教会担任）、大久保一秋（狭山教会主任担任）、竹内真理（深谷西島教会信徒）の推薦を可決しました。

・2021年度教団伝道資金申請額を350万円としました。内訳は、伝道交付金が300万円、教区伝道方策交付金が50万円です。

⑴　教師異動
菖蒲教会　辞 佐藤　繁（担・補）
宇都宮上町教会　就 武石晃正（担・補）
西那須野教会　辞 大下正人（兼担・正）
新潟愛泉伝道所　辞 加藤久孝（主・正）
聖学院教会　辞 東野尚志（代・正）
聖学院教会　辞 東野ひかり（担・正）
聖学院教会　就 赤田直樹（主・正）
所沢みくに教会　辞 最上光宏（主・正）
所沢みくに教会　就 加藤久幸（主・正）
所沢みくに教会　就 加藤輝勢子（担・正）
水海道教会　辞 加藤久幸（主・正）
水海道教会　辞 加藤輝勢子（担・正）
水海道教会　就 手東信吾（主・正）
聖学院大学　辞 久保哲哉（教・正）

⑵　23条申請
水海道教会（建物除去）

⑶　宗教法人規則・教会規則変更
越生教会（宗教／教会　役員定数）
日立教会（宗教／教会　総会開催回数）
愛泉教会（教会　新規）
桐生教会（教会　役員定数）

⑷　隠退届
最上光宏（所沢みくに教会）
加藤久孝（新潟愛泉伝道所）

⑸　宣教師登録
ラッセル・オーナー（アジア学院）
クレア・オーナー（アジア学院）

教区事務所だより

主事　金刺　裕美

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除され、ほっとしたのもつかの間。また、感染者数が増加している毎日です。感染拡大予防のために、家庭での礼拝を守っていた教会も多く、教区のほとんどの教会で財政的な落ち込みが大きくありました。そこで、新型コロナウイルスによる各教会の被害状況・影響を把握し、支援が必要な教会・伝道所を応援するために、アンケートをお送りしています。まだ提出されていない教会・伝道所は、急ぎお送り下さい。

◎年度報告書の提出について

各個教会の総会が開催できないため、教団への年度報告書提出締め切りが7月末までと延長されました。7月も残りわずかとなりましたので、ご提出がまだの教会はお急ぎください。

◎「教区一覧」の発行が遅れています。

教区の各委員会が開かれていない関係で、予定表の作成ができません。9月に配布できるように準備を進めています。

◎教区の公式ＨＰをご活用ください。

「日本基督教団関東教区」

URL　http://uccjkanto.holy.jp

教区活動の最新ニュース、お知らせをはじめ、資料集には教団・教区への提出書類のフォームも掲載されています。

どうぞご覧いただき、活用してください。

◎教区事務所の夏期休暇について

8月11～14日（火～金）、

18～20日（火～木）

※その他、土・日・月は通常通り休業です。

休暇中、ご不便をおかけいたしますが、どうぞご了承ください。

※緊急連絡先　小池正造教区書記

025－247－0058F（東新潟教会牧師館）

携帯　090－1404－9179

社会保険事務だより

保険事務　金刺　裕美

新型コロナが収まらないところへ豪雨災害が発生し、不安や生活困難な中で日々の歩みが進められています。これから、熱中症の心配も出てきます。体調管理には十分に気を付けてください。

◎算定基礎届けが終了しました。

4、5、6月分の謝儀額を年金事務所に届出しました。この届けにより今年9月から来年8月分までの保険等級が決定されます。謝儀額で2等級以上の変化がある方は7月分から、1等級の変化の方は9月分から保険料が変更になります。該当者へは、変更通知を送付いたします。

◎夏季賞与社会保険料算出方法について

①支給額の内、千円未満の額を切り捨てます。これを「標準賞与額」と言います。

②標準賞与額に各料率を掛けて保険料を算出し、教師と教会で折半します。（小数点以下は4捨5入、1円未満は教会負担）

年齢／項目	40未満	40以上65未満	65以上70未満	70以上
健保	9.81%	9.81%	9.81%	9.81%
介護		1.79%		
厚生	18.3%	18.3%	18.3%	
児童	0.36%	0.36%	0.36%	

③賞与保険料の納入は、8月末までに。

自動払込をご利用の方は、8月26日引落。

◎自動払込ご利用の教会・伝道所へ

6月分より、再引き落としのシステムがなくなりました。決められた日に引き落としのできなかった場合は、必ずその月のうちに各教会・伝道所よりご送金ください。

編／集／後／記

5月31日の聖霊降臨日は皆様どのように礼拝・聖餐式を祝い、守られましたか？　新型コロナによって、通常通りの礼拝・聖餐式を守ることが出来ず、ご苦労されたのではないでしょうか？　礼拝堂のすべての窓を開き、空気の入れ換えし、全員マスクをつけ、2m以上の間隔を空け、礼拝を守りました。大きな教会では礼拝を守ることが出来ないで、オンラインで、タブレットに礼拝の様子を送信し、守られており、タブレットを持ってない人には牧師が、週報、説教の原稿を自ら配布されています。アフターコロナの礼拝の姿を求めて参りましょう。一日も早い新型コロナの終息を祈ります。　（坂口慶行）